

轟 と ど ろ

平成23年1月27日
1月号

インフルエンザで休校



3学期始業式は欠席もなく順調なスタートでしたが、17日(月)3人、18日(火)5人、19日(水)4人、20日(木)3人とお休みが続き、その中でインフルエンザによる罹患者が増えてきました。急遽、学校医の坂口医師と相談して21日(金)を臨時休校の措置を取りました。この週には重要な「ゆうチャレンジテスト」を予定していましたが、児童の健康回復を最優先しました。保護者への睡眠時間の確保、うがい手洗いの励行・外出の控えの協力の効果もあって、24日(月)には全員が登校できました。

餅つきが威勢よく



11日(火)には保護者にご協力をいただき、勤労体験学習で収穫した餅米を使って餅つきをしました。お母さん方が蒸かした餅米を臼に入れて、お父さんと先生が杵でこねてから一人一人による餅つきです。全員が昨年経験していることもあり、ついたり、丸めたり、とても上手でした。丸めた餅は、独り暮らしの方にも届けました。

連日の積雪そして冷え込みで

1ヶ月以上続く積雪と冷え込みで、プールも校舎内の蛇口もご覧のとおり凍り付き、ついにはプールの排水管まで壊れて防火用水として貯水していた水も全て流れ出しました。



校長コラム

読書・勉強・感謝・適度な運動の4つの習慣に毎日コツコツ取り組んでいる子どもは、種が芽を出し、茎を伸ばして、やがて花が咲き、繁栄の人生を送ることができると言われていいます。特に「ありがとう」という感謝の言葉を掛け合っている家庭の子は、友だち付き合いが上手で誰からも好まれます。チョットしたことでも心配りに気づき、感謝してすぐ言葉で・行動で返すので、どんな人ともすぐ仲良くなります。今、家族の争いや引きこもりが多発して心のつながりを無くし多くの事件が起きています。決して他人事ではありません。子どもの時から家族で感謝する心や態度を身につけさせないと、家族なのに何を考えているかも分からない、話もしない、単なる同居人となってしまいます。そうならないために、毎日感謝の言葉やほめる言葉を掛け合ひましょう。「おかげで。上手だね。頑張ってるね。ありがとう。」この言葉は、家族に心の栄養を送っているのです。

どんどや空高く



14日(金)に運動会で活躍した杉門を囲んで、どんどやが開催されました。地域の方と一緒に子ども達も作業に加わり去年よりも高く竹の櫓も組まれました。教頭先生の話の後で火が入れられ天高く勢いよく燃え上がり、一年の健康と安全そして学業成就をみんなで願いました。

もぐら打ちに入学予定の新一年生も参加



14日(金)の夕方から保護者の車に乗って、校区内の全家庭を訪問してもぐら打ちを行いました。今年は特に積雪と冷え込みが厳しかったのですが、4月に入学する一年生も参加したこともあって勢いがつきました。地域の皆さんには、湯茶接待やお菓子のプレゼントをしていただき有り難うございました。

五家荘ようかん作りを実施

25日(火)に寿美さん、かおりさん、千穂子さんに指導を受けて「五家荘ようかん作り」に取り組みました。二人一組になって計量器で寒天・柚皮・砂糖・水・白あんを計り、説明された順番で交代しながら上手に進みました。途中で味見をしてみると何と美味しいこと。全員、作り上げて各家庭に持ち帰りました。地域のご高齢の方に僅かですが、ようかんを子ども達が届けました。

